

祭りとコミュニティ

石巻市「雄勝法印神楽の復興」をとおして

富澤 明久



宮城県石巻市 熊野神社神輿渡御

宮城県の石巻市に雄勝町という地域があります。太平洋に面しており面積の八十%以上が山林という町です。ここは習字で使う硯が有名で、かつて日本で作られる九十パーセントはここで作られた硯を使っていたとも言われています。もう一つ有名なものとして、「雄勝法印神楽」があります。雄勝町のお祭りで舞われている法印神楽で、これは六百年前、修験者が伝えてきたと言われている非常に貴重な神楽と言われています。これは雄勝町が誇る伝統芸能です。

二〇一一年三月十一日、東日本大震災による影響で、雄勝町は壊滅的な被害を受けました。そして、津波によって、神楽の面や衣装のほとんどは流されてしまったのです。そのため、お祭りが一時途絶えてしまいましたが、しばらくして生活が落ち着いた一年後、地域の結束力、また全国各地から多くの支援を頂いたおかげもあり、雄勝町のお祭りは復活することができました。これは地域の方々が皆、お祭りを再開してほしいという強い願いがあったからなのです。お祭りを再開した際、他の地域の仮設住宅に移動してしまった人も含め、多くの人が見に来て、楽しんでいました。お祭りが人々をまとめ、復興の後押しとなっていることを肌で感じ、お祭りの力に改めて驚かされた、と現地の方々は話しています。私は、今後の復興を支える大きな原動力となっているのだと感じました。この神楽を取り巻く活動についてお話していきたいと思います。

私はエリーニ・ユネスコ協会(大阪を拠点とする民間ユネスコ協会)に高校時代から所属し、現在は東京都の目黒ユネスコ協会の青年部でも活動しています。東京都目黒区は気仙沼市と姉妹都市であることから、震災以前からユネスコ協会、ユネスコ・スクールとの交流を継続的に行っています。

ユネスコといえば、世界遺産活動や寺子屋運動が頭に浮かぶと思いますが、未来遺産運動と呼ばれる活動も行っています。これは、日本の長い歴史の中で紡ぎ続けてきた文化遺産や自然とともに生きる知恵や工夫の中でつくりあげてきた自然遺産を未来の人々に伝えていく活動です。雅楽、能、文楽、

歌舞伎を始めとする無形文化遺産を保存する活動もその中に含まれてい
ます。無形文化遺産は、長年にわたって世代から世代へと受け継がれてきた、
私たちの身近な生活に関わるもので、伝統的な音楽、踊り、演劇、風俗習慣、
工芸技術などを指し、それは「生きた文化」です。「和食・日本人の食文化」
が世界無形文化遺産になり、話題になりましたが、日本人の自然に対する尊
敬の心、伝統的な文化に基づいています。古くから培われてきた日本の文化
や自然を百年後の未来の子どもたちに、そして世界に「生きている遺産」未
来遺産」を伝えることがユネスコ未来遺産運動なのです。

日本ユネスコ協会連盟は、東日本大震災直後より東北各県の教育委員会や
ユネスコ協会、ユネスコ・スクールを通じて様々な支援をされてきました。
その中で、文化的な面でも支援をと、壊滅的な被害を受けた宮城県石巻市雄
勝町に伝わる「雄勝法印神楽」に対して、津波とともに流されてしまった神
楽面や装束を支援することと同時に、そのような映像として記録すること
になり、手塚真監督によってその復興を進める雄勝町の神楽を取り巻く人々



「東北の今」を発信する大矢（菟田）中子さん

の様子、さらに修験道を元とす
る法印神楽の魅力が描かれてい
て、いつみても楽しめるドキュ
メンタリー映画が誕生しました。
私が初めて行った二〇一三年
十月の上映会では、東日本大震
災直後の二〇一一年四月より地
元の大学生とともにインターネ
ットTV (Ustream) 上、仙台・
東北の情報を発信しているNP
O 法人メディアアージュ代表の大矢
（旧姓・菟田）中子さんをお呼びし
て震災直後から現在の被災地の

動向について説明をしていただきました。

「IF I AM」復興を考えるソーシャル学生
ネットワーク」もまもなく五年、石巻の中・
高生による放送「くじらステーション」も
続けられています。しかしながらも風化に
ついては、「今」からできることもたくさん
あり、スマートフォンやSNSなど、簡単に
情報が手に入られる環境に身を置いてい
るので、生活の中で少しでも関心を持って
ほしいと語られていました。

二〇一四年三月に監督の手塚真さんと呼んで上映する話が持ち上がり、雄
勝に視察に向かい、そこで映画にも登場している葉山神社の千葉秀司宮司か
ら東日本大震災以後、祭りが一時途絶えてしまったものの、地域の方々のみ
な再開してほしいという願いから、生活が少し落ち着いたら後、地域の結束力
や全国各地から多大なる支援を頂いたおかげもあり、雄勝の祭りが一年で復
活すること。祭りを再開した際、多くの方々に見に来て楽しんで頂いたので、
祭りが人々をまとめ、復興の後押しとなつていくことを肌で感じ、お祭りの
力に改めて驚かされたこと。さらに、子どもが減り小学校が統合され、各集
落に神楽があつて統合されることによって、片方の神楽がなくなる。復
興にむけて頑張る現地を訪れてほしい。地域の人と祭りを守ること、継続の
大切さを伝えてほしいことなど、震災直後から法印神楽についての話などを
教えていただき、被災地の様子祭りや神社の現状を知りました。
その経験を踏まえ、國學院大學で、映画上映とともに東北の現状の報告を
行いました。報告会には、在学生や先生方だけでなく、大学内外の復興支援
担当の方や無形文化の保護に関わる研究者の方々にも参加いただき、評価を
得ました。



千葉秀司宮司



東京・表参道会場 手塚眞・岡野玲子御夫妻

町の新しい祭りのこと、途絶えていた明神さん（阿倍野区桃ヶ池）のまつりのことなどの紹介がありました。

学生が実行委員会を立ち上げ、「雄勝法印神楽の復興」上映会を日本ユネスコ協会連盟の協力で実施したことをきっかけに、大学ですすめてきた東日本大震災復興支援事業、東京の十六大学が所属する私大ネットワークとも連携し、多くの学生に呼びかけ、東北の祭りの支援に向かうことを継続的に行っていました。千葉宮司の兼務社でもある石巻市の熊野神社の神輿渡御への奉仕する機会を得て、他府県から来たボランティアの人々とともに神輿を担いだり、福島県いわき市久里

さらに、その一週間後には、東

京・表参道と大阪・阿倍野（寺西家阿倍野町屋）を再びNPO法人メディアージュとエリーニ・ユネスコ協会の共催でグーグル・ハンダアウトで結び、同時上映とトークショーを行ったのです。当日東京会場には、監督の手塚眞さんに加え、奥様で漫画家の岡野玲子さんにも参加していただき、ご夫妻から雄勝への思いや制作に関わる葛藤とエピソードが語られました。また大阪からの質問

などを受けていただき、「どつぷり昭和



大阪・阿倍野会場（寺西家阿倍野町屋）

國學院大學での上映会



浜の祭りなどを支援しました。

また、昨年三月仙台で行われた「第三回国連防災世界会議」「防災と宗教」シンポジウムと祈りの集いに参加し、震災で亡くなった多くの方々の鎮魂と心のケアを進める東北各県の宗教者のつながりや防災について知り、その後「防災とコミュニティを考える集い」で、身近に学生が防災を考える取り組みをしました。被災地で見聞したことを紹介した上で、自分の命を自分で守ることを重要な事を知り、東京で震災が起こったと、自らの防災意識を高めるきっかけにもなりました。

こうして東日本大震災復興支援の行事、現地視察報告など今まで数多くのイベントに参加あるいは主催し、今後のとりくみとして「東日本大震災」だけでなく日本における様々な災害から「まち・むら」の復興とその歴史、それを語る人材を育てることが必要と感じました。その意味で、本年三月十一日にボランティア・ステーションでのイベントを予定しており、活動の報告と情報の共有ができればと思います。皆様のご協力、ご支援をお願いいたします。

國學院大學神道文化学部四年
エリーニ・ユネスコ協会 UTs

『月刊社会教育』特集・震災復興と社会教育 2014.11 月号 709 号（国
土社刊）掲載分より加筆訂正）